

「施設の運営管理 ～ガバナンスの強化に向けて～」

～社会福祉法人札幌緑の苑の取り組み～

社会福祉法人札幌緑の苑 理事長、
宮の森保育園 園長 伏見 達子 (児-12期、No.01754)



当保育所は、昭和55年(1980年)12月、乳幼児併設90名定員として開園する。当時の札幌市の人口は約140万人。中央区に位置する宮の森は、田園風景が残されており、早朝には鶏の声と、馬の蹄の音が聞こえ、野菜や果実の畑があった。隣地に「宮の森児童会館兼宮の森会館」が建設されるまでは札幌と小樽を結ぶ国道5号園を望むことができた。

平成26年(2015年)3月には、乳幼児併設に加え障がい児も増えている園となっている。当市の現在の人口は約193万人となった。鶏や馬の姿はもちろん、鳴き声、蹄の音は聞かれなくなり、代わりにマンションが聳え建ち、畑はほとんどなくなってしまった。

この34年の間に次のような環境変化があった。社会事象も大きく変わり戸惑いを覚える間もなく、日本全体に大きな変化が生じている。特に、世界に類を見ない速さで迎えた我が国の高齢化が、留まることなく加速さえている中で、少子化問題、未来の社会構築に不安が生じている。また、現在そして将来の労働力不足が、女性の社会進出を強く求めている現状があり、結果、児童の減少にも拘わらず保育園不足、

更に幼稚園の預かり保育が推奨されるようになった。

個人的には、余程研究し学んでから、保育を实行する必要があると思う。何故ならそのことが、これから社会を構築していく児童の育ちに大きな影響があるからである。保育園を続けている現在、今一度立ち止まり、考えたい。

児童の幸せを願って作った園章、園歌は現在にあってもこれからも続いていって欲しい。園章、園歌に籠めた願いは次のようである。

園歌の歌詞は、すすく心身共につよく優しい心と健康を以って、成長して行ってほしいという願いで作詞した。471.21平方メートルの園庭で

園 章

限りなくひろがる北海道の青い空に向って逞しく成長する高木。その枝々に春一番の白い飾りをつけるモクレン科の辛夷(こぶし)の花。芳香を放つ白い花の中心に多数の黄色い芯がある。

その花が散ったあと、勢いよく伸びて美しい緑の葉が繁茂してくる。秋になると赤い種子もできる。

それらの特徴を図案化してみました。

背景の藍色は、空の深さ・広さを、

10角形は、5クラスの児童と担任のつながりを、

木・葉の逞しさ・勢いは、そのままつよさを、

白い花は、やさしさ・親切を、

黄色の字「宮の森」は、お友達と仲良しになることを、

赤色の字「ほいくえん」は、赤い色の実と同化されて、みのりある保育園生活をおくることができるようにという願いをこめて園章としました。



宮の森保育園の園歌

伏見達子/作詞
中田喜直/作曲

一、かげろうもえる春の野に
そよぞよ風とあそんでる
ついですみれ・たんぽぽの
まぶしいお・お・お・わらわら

二、みどりもえたつ園庭に
ひらひら舞てる花ぶらぶら
いそいそ・まらあ・おとむらり
にこにこ笑顔がひかっている

三、ゆうひがすみ 宮の森
まらまら空に星のころ
お花もみんよわむでる
すすべ・おすままたあした

は、札幌時計台のモニュメントが「時計台の鐘」を奏で、すぐ近くにある「宮の森ジャンボ公園」で遊んでいる子ども達に帰宅時間を知らせている。また、コブシ、クリ、ニッコウヒバ、ドウダンをはじめツツジやたくさんの草花が四季を織り成し、夏には涼しい影をつくりその下に砂場があり、柔らかな芝が幼い児の足をくすぐっている。他に動物も飼っており、豊かな情緒を育てる場となっている。学校との交流も続いている。

- ①5月末から6月上旬に行う“地引き網”体験では、4台のバスを借りて30分程走った先にある石狩浜で第一次産業の体験をする。
参加者皆で漁師の方たちが海中に撒いておいた網を引きあげる。網の中には小魚の“チカ”がピチピチ光って跳ねている。海鳥のカモメも降りてくる。獲れた“チカ”は全員に配り、天ぷら、フライの料理にする。
- ②7月の札幌市民音楽祭では、スクランブル交差点で、4・5歳児参加のレコード鼓隊参加で多くの人に楽しんでもらっている。
- ③8月の第一土曜日では、なつまつりを行い、縁日、盆踊り、花火を楽しむ。参加者は外国の人も含め700人近くになる事もある。
- ④9月、運動会前日の観劇、翌日の運動会では、近くの高齢者施設の皆さんの玉入れ競技初め地域の児童、卒園児も参加して秋の一日を皆で楽しんでいる。
- ⑤11月、宮の森保育園園歌を作曲した故中田

喜直先生が育てたソプラノ歌手の松倉とし子さんとボニージャックスのバリトン歌手鹿島武臣さんが童謡や叙情歌をうたう時、地域の人達にも案内して一緒に楽しんでいる。

その他、地区の宮の森小学校の学習発表会に招待され参加している。校区になっている天下の向陵と呼ばれている向陵中学校とは、“ホスピタリティ マインド”というテーマで二日にわたり、3年生4学級160名の中学生が来園する。その後、秋が深まる晩秋の11月には園児全員で中学校に行き、中学生が用意した5ブースで子ども達はおもてなしを受け仲良しになって帰ってくる。

病院にも呼ばれて、皆さんの前で、生活発表会で発表する歌や踊りを観てもらい、おみやげをいただくこともある。

園の外の社会に触れて気づいたのは、長により雰囲気が違うことである。特に学校では校長が代わると学校の雰囲気が変わる。これは、ガバナンスの影響によるものであると考える。

3月第四土曜日は当園の卒園式があり、今年も23名の卒園児を10の小学校へと送り出した。卒園児達は、少しの不安と多くの夢をもって翔いて行く。在園児で次の年長になる子ども達も、お世話になった先輩に感謝の気持ちと尊敬の念をもってあいさつのことばと歌とで送っていた。児童、保護者、来賓、私達職員一同の心が一つになる時である。

当園は、四季折々に日本の伝統に関わる多くの行事を行っているそして、その時その時で感動があり、心ひとつになる場面が多い。

目的に向って一同の心が近づく時、ガバナンスをつよく前面に出さなくとも統治されると考えている。また、現場と制度がつながる時、生きた福祉になると信じている。

著者は、他職種の集合体である札幌市中央

区防火管理者協議会550会員の会長として、四期目を迎えた。本音はもう辞任させてもらっても良い頃であるが、考えた結果、福祉法人の認知のため、もう一期勤めることを決めた。

次年度への挑戦として、「札幌市小規模保育園」への連携園として①～⑥の支援を試みることにしている。

①嘱託医による健康診断

②満2歳以上の児童を中心とした連携施設の屋

外遊戯場の定期的な利用

③連携施設の入所児童との定期的な交流等の合同保育

④乳幼児の保育に関する相談・指導等のほか、保育士の急な病休等の際の代替要員派遣等

⑤運動会等の行事を合同で参加する等の参加

⑥食事の提供

恐れを知らぬ自分が恐ろしい。

札幌市小規模保育事業C型について

1. 背景

札幌市小規模保育事業とは、国の「待機児童解消加速プラン」を積極的に活用した事業を行うことにより、平成26年度末までの待機児童解消を目指している札幌市が選んだ制度である。

NPO法人等が持つノウハウや機動性を活用し、交通利便性の高い地域にある賃貸マンション等において、3人一組の家庭的保育者が家庭的保育補助者とともに3歳未満児の保育を行う小規模保育事業C型を実施することで、待機児童の約8割を占める3歳未満児の待機児童数解消を図ることを目的としている。

なお、国の調査によると、平成25年10月現在の札幌市の待機児童は824名である。

2. 当法人が参加するねらい

- ・他の経営主体が進める福祉の運営方針に興味をわいたこと。
- ・営利法人が提供する保育サービスが、実際に保育を行う過程で、社会福祉法人の保育サービスと比較して、児童の発達に影響があるのか、その有無を知りたいこと。
- ・当園は、市内の待機児童が多いにも拘らず、定員の増員をしていない現状があるため、僅かでも貢献したいこと。
- ・職員、特に保育士に、他の経営主体の職員に接することで、新たな気づきや学びの機会としたいこと。

・児童にも、他園の児童、職員と接触することによりもっと人々との繋がりを広げさせたいと考えたこと。

3. 札幌市小規模多機能C型実施によるメリット・デメリットについて

- ・2.のねらいにあるような価値を求めるよう努めたい。
- ・デメリットを敢えて考えるなら、お互いの児童への悪影響が現れた場合、双方が傷つかずに連携園の役割を解く方法ができるかどうか気がかりである。
- ・当園は、開園前に「保護者会」の設置の有無について、当事者の意見を伺った結果、これまで設置しないで現在に至っている。しかし、他の経営主体では、保護者会が設置されており、保護者の意見を聴きながら運営を行っていることが多いようである。保護者支援の必要性が指摘されているなか、保護者がどのようなニーズを抱えているか興味がある。

社会福祉法人と他の経営主体との違いが生じるのは当然であると考えており、違いはあっても過敏に反応しないようにしたいが、児童に関する考え方の違いが出てきた時には相互話し合いを行い、解決をしていきたい。文理結合的な考え方で臨みたいと考えている。